

5 . やさしい育成技術

ブレーキング 胴締めとダブルレーン ～ 馴致2～4日目 ～

軽種馬育成調教センター 技術普及課 齋藤 昭浩

ここでは、BTCの研修で行っている競走馬の育成方法と研修生の指導方法や注意事項を踏まえ、解説して行きたいと思います。

前号では馴致初日のロンジングでは少々戸惑いながらも、円馬場を両手前速歩・駈歩で実施したパルル号。2日目のロンジングではどのように変化したのでしょうか？



「ロンジング ～馴致2日目～」

ケン：教官は初日のロンジングでパルルをかなり追っていましたが、2日目にはどのような点に気をつければよいのでしょうか？

教官：初日は、円馬場の円周上を左回り右回り確実に走ることを徹底させました。また、パルルのリーダーは人間であるということに合わせて理解させました。2日目は、初日と同様に円馬場の円周上を確実に回ることを復習します。しかし、初日のようにパルルを追い出すことはしません。パルルがどこまで理解しているかが重要です。

ケン：では、ロンジングのスタートは静かに行うことがよろしいのですか？

教官：その通りです。きっとパルルは、ケン君の期待通り、前進するはずです。では、左手前から実施しましょう！

ケン：教官！パルルが円馬場を軽快に自分の意志で走っています！

教官：とても良い結果ですね！なるべく駈歩にならないよう、常に穏やかな声をかけパルルの精神状態を平穩に保つように心掛ける事が大切です。続いて右手前も実施しましょう。

ケン：教官！両手前とも、とても軽快に運動できました。

教官：GOOD - JOB！パルル&ケン君！2日目のロンジング時間が両手前10分以内で終了できたことは、とても良い事です。



2日目のロンジングは、あくまでも初日のおさらいです。馬を追い立てて実施するのではなく、馬に自信を付けさせるため穏やかな声を発して実施しましょう。

「胴締め ~馴致3日目~」

教官: 2日目の午後は、3日目に行く胴締めのための馬具を準備すると共にサイズ合わせをします。但し、腹帯以外の馬具は馬に慣らす程度ですので長めに合わせておきましょう。胴締めの時に使用する馬具はローラー(腹帯)・サイドレーン・胸がい・スタンディングマルタンガール・鞍下パッドです。

ケン: いよいよ鞍を装着するための第一歩ですね。

教官: そうです。2日目の午後にサイズ合わせしたローラー一式を持って円馬場に行きましょう。まずは、5分位軽く左手前のみロンジグを行いましょう。

ケン: ロンジグでは非常に落ち着いていますね。いいぞ~、アロたん! じゃなかったパルル。

教官: 初日、2日目で実施した調教の効果が表れています。声による前進、減速もパルルは全く問題ありませんので、いよいよ胴締めを行いましょ! 馬具の装着順序は以下のとおりです。



【ローラー式の装着手順】

ロンジグ後、補助者が馬を円馬場の中央に立たせ保持しローラー一式を装着する。

装着前には全ての馬具の臭いをかがせる。

スタンディングマルタンガールのネックストラップを首に回して装着する。

鞍下パッドで首、背をさすりながら背に寄せ、ローラーに付いている馬具を装着し易いようにまとめた後、ゆっくりと背中に乗せる(図1-1)。

胸がいを装着し、左右のサイドレーンをキ甲上でクロスさせハミに繋ぐ。

ひとりが調馬索を左手で保持し、右手で馬の肩をとって保定する。

もうひとりが腹帯を緩まない程度にゆっくり締

める。締めたら、追い鞭を持って馬を追う準備をする。

馬を保持している者は馬を前に出し、ゆっくり肩をとっている手ははずし馬から離れる。馬が立ち上がったたり、飛び跳ねるようであれば追い鞭で馬を追い出す(図1-2,3)。

落ち着いたら中央に引き入れ、腹帯を締めなおした後、再び馬が落ち着くまでロンジグを行う。(途中に手前を変える)

ロンジグ終了後、馬房に入れ30分ほど馬具を着けたままにしておく。



図1-1



図1-2



図 1-3

教官：それでは、手順どおりローラー式を装着してください。

ケン：は・い。アロたん、落・ち・着・い・て・ね・。。

教官：チガ～ウ！落ち着くのはケン君です。「アロたん」なんていう馬は居ませんよ！パルルです！

教官：それはさておき、馴致作業を実施する者は、常に同じ側にいることで安全な作業が出来ます。お互い声を掛け合いながら行いましょう！

ケン：教官、最後に腹帯を締めます。よろしいですか？

教官：はい。締めたら、追い鞭を持って追う準備をして下さい。

ケン：はい。締めまーす。
.....

初めての胴締めにも、暴れることなく従順に受け入れたパルルでしたが、ケン君の方が緊張してしまっただようです。



ケン：教官、事前に行う作業は十分理解していましたが、いざ実施してみると頭が真っ白になりました。

教官：初めて行くことですから仕方ありません。色々な馬で経験を積むことによりパルルのような従順でない馬であっても簡単に対処することが出来るようになります。そのためにも、馬具の装着順や注意事項は完全に理解していることが重要です。

ケン：はい！常に勉強をしておきます。

3日目の胴締めは、馬が立ち上がったたり反転したりすることが多々あります。実施者は落ち着いて、馬を推進することに集中しましょう。

「ダブルレーン ～馴致4日目～」

教官：3日目に胴締めを行ったパルルは、非常に従順であり、全く問題無いため、今日からローラー式の装着は馬房内で行います。

ケン：昨日と同じ順序で行うのですか？

教官：そうです。但し、胴締めを行うときには1回目、緩く締めたあと馬房内で馬をゆっくり回します。2回目はきつく締めたあと馬房内でゆっくり回します。

ケン：何故、馬房内で回すのですか？

教官：それは良い質問ですね！昨日、大人しかったから今日も大丈夫と過信してはいけません！胴締めの際、馬は緊張してお腹を膨らましていることがあります。そのため、緊張を取り除く上でも馬房内をゆっくり歩かせることで緊張が緩和され、馬自身納得して胴締めを受け入れるのです。昨日のおさらいとしてパルルの反応をよく観察しておかないと危険が伴います。

ケン：なるほど！「馬の躰」で学んだ、反復練習がここでも行われているんですね！

教官：その通りです。それでは、行いましょう。その前にケン君！常に疑問を持つことはとても大切なことです。何事も意味がある

作業ですので教官の指示通り行うのではなく、実施する意味をよく理解した上で行動に移しましょう。どんな事でも聞いて下さい。

ケン：教官！腹帯を締めようとするするとパルルが動き、前肢を上げてお腹を叩こうとする素振りを見せるのですが？

教官：それは、胴締めに対して違和を感じているせいですが、パルルの表情を見ると「少しだけ嫌な感じ」といった感じです。決してパニックにはなっていません。ですから、そのような素振りを見せた場合は、パルルの肩をとって保定することで、安全に行うことができます。

ケン：わかりました。肩をとってみます。お～、スゲエ～。大人しく受け入れましたね！

教官：それでは、円馬場に行って軽く左手前でロンジングを行った後にダブルレーンを行いましょう。用意する馬具は、リードロープと2本目の調馬索です。

ケン：ロンジングでは、声による反応だけで、前進・減速ができますね。

パルル！GOOD-JOB！！

教官：それでは、ダブルレーンに移りましょう。ケン君は、リードロープでパルルをキャッチして円馬場の中央で止まってください。

ダブルレーンの装着手順

補助者がカップランより引き手を取り、馬を保持する。

もう1人は右の調馬索をローラーの横にある環を通してハミに繋いだ後、残りを束ねて馬の背にそっと乗せる。(図2-1,2)

左の調馬索も同様にハミに繋ぐ。

左手に左の調馬索を持ち、右手で馬の背の調馬索をゆっくり取り、腰から尻にまわす。この時、馬が動くようであれば、馬を保持している者が肩をつかむ。(図2-3)

調馬索を保持している人は、ロンジングができる距離を取り、補助者に合図を送り、速歩・駈歩を行う。

馬が落ち着いたら、手前を変え再びロンジング。手前変換を何回か繰り返す。

円馬場内で補助者の曳き馬によりドライビング

を行う。

円馬場内で大人しければ、補助者が付いたまま外に出てドライビング(図3)。

馬房内で馬装したまま30分放置。

教官：では、やってみましょう。最初は左回りになるよう、ケン君がパルルを誘導してください。その際、リードロープはカップランから外し、右手で調馬索とサイドレーンを持って誘導して下さい。

ケン：はい！

よし、頑張ってきてジョージじゃなかった、パルル！

教官：ケ・ン・くん！！！！

.....



図2-1



図2-2



図 2-3

4 日目のダブルレーンは実施した直後、後肢にレーンが付くことを嫌がり、尻っぱねをして外側のレーンが馬の腹下に来る場合があります。したがって、外側のレーンは素早く馬の尾の内側に位置することで腹下に来るのを防ぎます。

イラスト：山本 智也

(日高大洋牧場勤務：BTC養成研修第18期修了者)



図 3